

午後3時、占拠した議事堂に結集した約五〇〇名の学友は「存心館占拠実力排除、新聞社撤退」を決議し、ヘルメット、角材で行動隊を組んだ。その主力は、サークル、寮連合、無党派（丁連など）であった。

存心館にたてこもる内蔵らは、放水石油や消火液の散布で応じ、関西ではじめての本格的な内ゲバ（京都新聞14日）がおこる。一時間半にわたる衝突は、民青系学生が存心館の一階西側に追いつめられ孤立する一方、新聞社支援の学友も、二階の登校時間にかかり、民青系学生が存心館を包囲してしまい、孤立させられるという危険を感じ、終末をむかえた。この終末のきっかけをつくったのが、当時の教務部長であった乾教授（全共闘は彼の悪口を言わない）で、彼は、身をついて攻防の中においては、「休戦」をもたらし

た。衝突闘争でならした党派の実数部隊を欠いたこの混成部隊が、民青行動隊を相手によく闘い、結局、内蔵らを存心館からたたきだすことに成功したのは、どうしても理のない民青がその支持学生を動員できず世論として孤立したこと、しかも、民青同盟内部の不統一のためにクラス、サークル段階の活動家が、ヘグモニーをとれないでいたという相手方の弱点にある。13日の集金と行動で協力しあう寮連合、サークル（学術）、丁連は、6・15以来、立命における大衆闘争でずっと共闘してきており、強力な統一を実現すると期待されてきたが、三派連立からおりフロント派修正主義グループの打倒を呼号しはじめた社会学部は、京都における反代々木系の最大部隊でありながら、フロントの影響力の少なくない新聞社への支援をためらい、静観しつつ、又、頼みとする中核派は臨時の全国大会へ上京中であり、いわば無党派ひとり、民青全学連拠点校の行動隊にたちうちできるものではなかった。

12・6反戦闘争では、のちに京大全共闘の主軸になる京大反戦連合と共闘して、寮連合、学術本部、丁連が立命集金会を共催している。

民青の強硬派のいきすきは、内部においてかなりの混乱を招いたのではないかと推測されるが、彼らの混乱は、14日以後、全共闘（準）が、キャンパスをリードするという事態のなかで実証されている。クラスから学友会執行部まで組織された民青系のヘグモニーは、マヒしてしまふ。

①民青の暴挙／日共民青、学園新聞社BOSSを占拠

法工クラス新聞

【資料】昨日午後一時、民青の学生約10名が新聞社入社を強要した。新聞社側では、編集会議などで非常に忙しので16日の日曜日に話をうけたうえ決定するといったにもかかわらず、入社決定をあくまで強要した。そしてそのまま社員を監禁しBOSSに居座ったのである。この民青の新聞社の自由を奪った行動に対し私連一般学生は抗議行動を起したのである。そして監禁された数名の新聞社員を救出のために、寮連合の援助のもとにただちに行動を起したのである（全文）

自由の圧政を許すな

憲法方法論研究会

事実経過に明らかたように学友会民青は、新聞社を不法占拠し社員を監禁する中で、10名の大量入社を強要し、今なおそれを主張している。新聞活動は編集者——読者の相互関係の場として理解しなければならぬが故に、新聞の相対的な独立性が保障されねばならない。にもかかわらず、学友会系諸君は、学園新聞を政

治セクトに従属させ自らの主張の代弁機関に矮小化しようとしている。まさに政治セクトによる大衆団体の主体性の圧殺であり、セクト的引き回しに他ならない。サークルの主体性を破壊する内部干渉が混乱の根本原因であり、学友会、民青諸君の自己批判のみが、収拾の唯一の道である。（要旨）

民青に対する排撃状

日本文学研究会

日共民青学友会暴力一帯は自らのシマを確保するためには、予算削減や今回の新聞社へ押しつける強盗的行為で、民主的ツラを保ってきました。彼らは時々アセリを感じます。それは何よりも知的ヘグモニーが持てず（力）で奪えるものは、みな奪ったのに、コンプレックスに陥った時なのです。彼らは知的ヘグモニーを持つ事は、とても無理なのです。それは彼らが手力勇命の様な力があれば欲しいものは皆手にはいるという即物論者（決して唯物論者ではない）だからです。我々は民青に対して怒りをこめて糾弾します。（要旨）

寮連合学術・学芸・丁連は運動の当初の役わりから中心的な位置を占めた。

学友会民青に対する広範な学生の号々たる批判の集中の中で、立命館大学全学共闘会議準備会は結成される。準備会全共闘は、反民連合という色彩にもかかわらず、主軸を無党派におき、議長は甲斐（寮連合委員長）書記長大越（学術委員長）行動隊長小柳（丁連）というメンバーを、党派のさしたる異議もなく選び、個性をもって

【資料】②

全共闘（準）の旗の下、全ての激闘的学友は隊列を強化せよ！

立大全共闘準備会

全立命の学友諸君！一昨日以来、我々が斗ってきた新聞社不当暴力占拠解除／存心館占拠解除／は、三百名の革命的武装部隊と二千名の学友を結集し、全学的な斗いへと発展したが、我々はその過程で全共闘準備会を圧倒的学友の手によって結成したことをここに報告したい。

立命の学友を支配している日共民青は来年二月の総長選において日共議長を確実に選出することをメルクマールに、今、全学支配を貫徹しようとしている。

彼らは昨年10月羽田・成田闘争にいたる日本階級闘争の画期的局面を切り拓いた革命的戦線に対して「日帝に対する武装闘争反対」を叫び、反革命的妨害者として登場してきた。又、東大、日大を中心とする学園闘争にする我々の闘いに対して「学園に法と秩序を！」という佐藤政府を全く一体化した路線で敵対してきた。しかも日共民青は、日帝の基盤を根絶的に揺り動かす闘いが深化するに従って、彼らの彼側していた小ブル的基盤の解体を防衛するために、武装部隊を出動させるにいたったのである。これが現社会における全学支配と抑圧を粉砕するために非妥協的に闘う革命戦線に対する諸君の統一化し、それを強固にする諸君、寮連合部隊以外の何物であろうか。彼ら日共民青の立命における政治的陰謀の内実には明白である。この間の日共の動揺と後退をくいとめ、まき返す為にまずもって立命を彼らの拠点とせんとしているのである。立命を日共のトラップ部隊とすべく我々の戦闘的学友会運動をファッショ的弾圧下におこうとしている。新聞社の不法占拠。存心館の武装占拠。学術、学芸、寮等への監禁